

令和六年度 大阪成蹊短期大学 入学式 学長式辞

寒暖差が大きかった冬から、穏やかな心地よさが、私たちを包み込んでいるように感じる季節になりました。まさに春風駉蕩の季節に進んでいます。

この佳き日、382名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

ご多忙の中、同窓会の蹊友会会長の藪田様、学園後援会会長の黒田様、教育振興会会長の藤本様をはじめとして、本日ご臨席賜りましたご来賓の皆様、学園関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

また、これまで入学生を日々支えてこられました、ご家族の皆様にも、心からお祝い申し上げます。併せて、入学生の皆さんは、新たな学生生活が始まりますが、今日を迎えられたのは、皆さんのこれまでの努力はもとより、ご家族の皆様をはじめ、周りの方々の多くの支えがあったことを忘れないでください。

さて、本学は1951年に創立し、七十年を越える伝統を誇り、これまでおよそ七万人の卒業生を輩出してまいりました。これまでに卒業された先輩たちは、それぞれが望む資格取得や検定の合格に向けて努力し、実学的な知識と技術を身に着けた結果、卒業時の学びの満足度は98%を超えています。これは、全教職員が学生の目標をかなえるために最大限の支援に努めており、「なりたい自分」を実現できる短期大学を目指している成果とっています。私たち教職員は、皆さんと向き合い、皆さんの支援に努めていく所存です。

併せて、入学した皆さんにも、お願いいたします。それは、本学での学びの中で、ぜひ「夢」と「志」を身に付け、充実した学生生活を送ってほしいと思います。

明治時代、札幌農学校のウィリアム・スミス・クラーク博士の有名な「Boys be ambitious!」、「少年よ。大志を抱け。」の言葉は、恐らく誰も聞いた言葉と思います。札幌市内を見下ろす羊ヶ丘の展望台にクラーク博士の大きな銅像が建てられています。右手を挙げて未来を指し示す先生の銅像に刻まれた言葉です。大志とは大きな志と書きます。

クラーク博士は、明治の黎明期に札幌農学校、現在の北海道大学ですが、当時の世界最先端の化学や農学の教学システムを日本導入し、その後の我が国の発展に大きな影響を与えた先生です。明治十年にアメリカに帰国する際に、多くの教え子たちを前にして贈った言葉とされています。「若者は大きな志を持って世に出よ」という意味ですが、実はこの言葉には、まだ続きがあります。

「少年よ、大志を抱け。」

しかし、金を求める志であってはならない。

利己心を求める志であってはならない。

また世の人間が名声と呼ぶ、あのむなしいものに対してでもない。

人が人として備えていなければならぬもの、あらゆることをなし遂げるためのもの、そして、それを求める志を抱きたまえ。少年よ、大志を抱け！

この『大志』という大きな志は抽象的な言葉ではなく、具体的な意味があったのです。人

間は、金銭や名声等の空しいもの、空しい価値を追い求めるのではなく、人としての根幹である心豊かな人間性と、あらゆることを成し遂げる能力、そしてそれらを追い求める志を持って、世に出よということを若者に教えてくれました。

若者たちに、この「志」は脈々と受け継がれ、その後の明治時代の文明開化や富国強兵など、当時の科学技術の進展の背景となったのに違いありません。

現在、人は将来を語る時、「夢をもち、夢の実現をめざす」と「夢」という言葉を多く用います。一方、幕末や明治時代の思想家の書物には、「夢」という言葉はほとんど見られず、「志」という言葉が多用されています。有名な吉田松陰先生の書物にも「志」という言葉がたくさん出てきます。では、この夢と志の違いは何でしょうか。

ソフトバンクの社長である孫さんは、「夢」とは、漠然とした個人の願望であり、「志」とは個々人の願望を超えて、多くの人々の夢を叶えようとする気概であると述べておられます。つまり、夢とは「何々になりたい」等、個人の目標や希望ですが、「志」とは、個人の願っただけでなく、もっと公的で、周りを巻き込む強い想いを含んでいます。更に、夢を達成後の行動を伴うものでしょう。例えば、自分は将来医者になりたいと思えば、個人の「夢」ですが、将来は医者になって世界中の難民のため、医療を受けられないで亡くなっているアフリカ子どもたちを救いたいと願えば、個人だけの願望ではなく、他者と関わる行動を伴う「志」でしょう。「志」は、対象が自分と他者との関わりもあるため、志は続きやすく、その志が大きければ大きいほど、他者にも引き継がれ、時代を超えて引き継がれていきます。

幕末から明治維新にかけて、若者たちがこのような「志」をもって活躍し、周りの人と関わりで人を動かし、社会を動かした結果、時代は変わり、日本の近代化、社会変革へとつながったのではないのでしょうか。

本学に入学される皆さんに期待するのは、まず「夢」をもってもらいたいと思います。そして、自分だけの夢に終わらず、他者との関わりを大切に、周りに影響を与えるレベルまで夢を高めた「志」を持ってください。個人主義が定着している現代は、「夢」がふさわしいのかもしれませんが、しかし、これからのAIやロボットが進化する中では、人との関わりが一層重要になると言われます。そのためにも、未来の担い手である皆さんには、他者とのかわりの中で「志」をもって学び、本学で成長してもらいたいと願います。

大阪成蹊短期大学の教職員一同は、皆さん方の「夢」を実現し、更に高い「志」へと導きたいと願ってやみません。わずか二年間の学びですが、本学で専門的な知識・技術を身につけてもらえるよう、成長する皆さんを全力で支えることをお約束して、入学式の祝辞とします。

令和六年四月一日

大阪成蹊短期大学学長 紺野昇